

～これからを笑顔で楽しく生きるために～

11期 アクティブシニアをめざす

日 時：2023年10月26日

場 所：北雲雀きずきの森

学習テーマ：きずきの森再生・ボランティアグループの活動

講 師：北雲雀きずきの森きずな会 代表・榎谷様他2名様

今日は、リタイア後の人生を謳歌されている方々の話を聞くことが出来ました。

「北雲雀きずきの森」は、宝塚市の南東部、長尾連山の東端、石切山の北麓にあり、川西市に接する28ヘクタールの森で、北部と東部は大学や住宅に隣接しています。

阪急 川西能勢口よりバスで15分くらいの場所です。

戦前までは里山だった場所に、戦後 ゴルフ場等ができ、それらが閉鎖され、紆余曲折あり、2009年に兵庫県「里山ふれあい森づくり事業」により整備開始。

と同時にきずな会がボランティアグループとして発足。



私たちが到着すると、きずき小舎でボランティアの方々が、準備万端で迎えてくださいました。

ボランティア代表の榎谷さん他2名の方のお話を伺いました。



現役時代からの活動の続きで携わっている MR.榎谷

山歩きが好きで、散歩をしている時、山の整備をしている方に気づき、北摂里山自然大学で学んだ後、参加された MR.兼武



退職後、新たに住み始めた地域で、愛犬との散歩で見つけてこの活動に参加された MS.せりたは、周辺の学校の子供たちを環境学習や観察会に受け入れていることで、この環境を残していきたいと思うようになったそうです。

テーブルの枝は、ハリエンジュ
成長が早く、1年で2mほどになる。





きずき小舎の隣に、炭焼き窯があります。地面を掘り、煙突を立てて、山で間伐した木を炭にしています。当初はドラム缶を窯にしていたそうです。

焚火の頃合いを見計らって、土をかけて炭化するのを待つのだそうです。

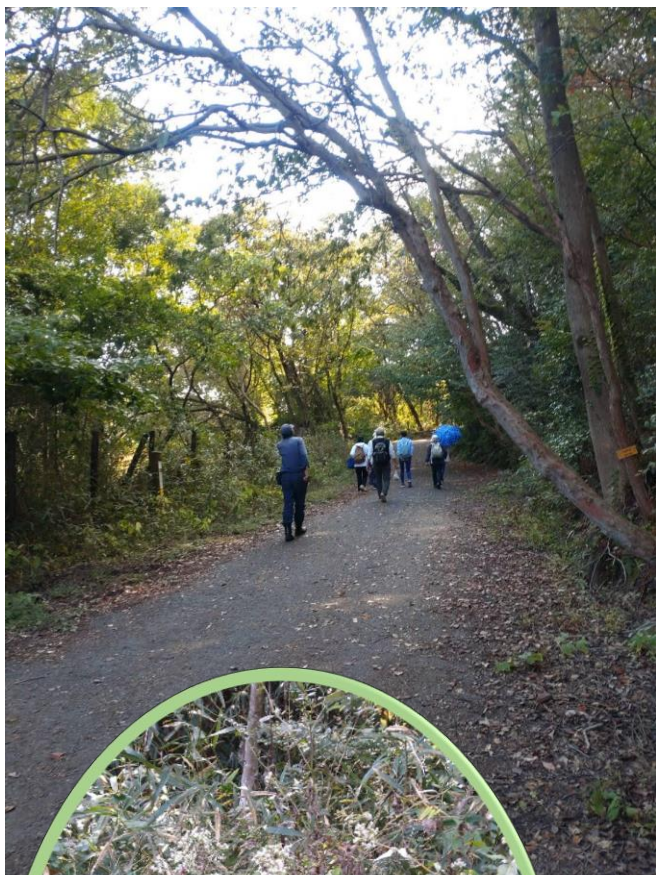
煙突の途中から、木酢液も。

10年も続けている、自称、変なおじさんでした

出来上がった炭は、地元の自治会の親睦会やボランティアグループの親睦会で利用しているそうです。

この日は、私たちもおすそ分けしていただきました。

歩きながらも、ボランティアの方のお話です。



植物、鳥、炭焼きなどの話のあと、6人ものガイドさんがみはらしの広場までの20分ほどの道のりを、いろいろ話をしながら案内です。

セイタカアワダチソウは、虫媒花なので花粉症はおきないとか、日本では嫌われる花ですが、アメリカでは養蜂家が花の蜜を採取するのに利用しているとか。

アサギマダラの好きなヒヨドリバナ。フジバカマも増やして、アサギマダラがたくさん飛来するようにしたいとか。

みはらしの広場の手前で、「この辺で見たのだが」と言いながら、ススキの根元に寄生するナンバンギセルを見せて頂く。

羽付きの羽の黒い玉につかう無患子

赤まんまもミズヒキソウも色が鮮やかです。

落葉樹が多いので、野鳥観察のメッカだそうです。

絶滅危惧2類に分類されるセトウチサンショウウオもいるそうです。

みはらしの広場でお弁当を食べました。ベンチもテーブルも見晴らし台も手作り。
大阪平野が見渡せます。

ボランティアグループの方も、お弁当を持参していました。一緒に食べて、もっと話を聞
けばよかったと、少し悔やみます。



ゴルフ場を整備しているとき、

水路や池を発見。

手彫りで掘り起こしたんだそうで
す。

食後、きずき小舎に戻り、スワッグ作りを体験。

一人分ずつ、花材と麻ひも、リボン等をセットにして、テーブルの上に並んでいます。道中、自分で採取した植物と合わせて、アドバイスを頂きながらのスワッグ作り。持ち帰りの袋まで用意していただきました。

後片付けもせず、バスの時間に合わせて、見送っていただきました。

地域の子供たちを受け入れた時のように。



宝塚市と川西市にまたがる 28ha
もある広大なきずきの森。そのうちの一部を歩いてきました。

広い敷地に、大勢のボランティア
メンバー。

リーダーの力量とメンバーの人柄
に感服いたしました。

後日、他の場所も訪れたいと思
いました

